※令和４年度以降入学生用

学校番号	１２０５

令和５年度　情報科

教科	情報	科目	情報Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	新編 情報Ⅰ　（東京書籍）						
副教材等	新編 情報Ⅰ 資料ノート（東京書籍）と 30 時間 Office2016（実教出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・毎回の授業では、プリントやワークシートを活用して情報の知識や技術を学ぶ座学形式と実際にパソコンを活用して操作方法や活用技術を身につける実習形式の両方を行う。
・実習では、その日の課題があり、課題の進捗状況や達成度に応じて評価を行う。
・評価は、平常点が４割、定期考査が６割の割合で評価を行う。

２　学習の到達目標

高校情報の教育に関する基礎的な知識を学び、実習授業を通して実践力を養う。
(1)情報に関する科学的な見方･考え方を働かせ，情報技術を活用して問題や課題を発見・解決する力を習得する。
(2)問題や課題の発見･解決に向けて，情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を習得する。
(3) 情報社会の発展に主体的に寄与する能力と態度を身につける。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	①情報と情報技術についての知識を活用して、問題を発見することができる。 ②ﾜｰﾌﾟﾛｿﾌﾄ・表計算ｿﾌﾄ・ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝｿﾌﾄ、ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ等の様々な情報技術やﾂｰﾙを活用することで、発見した問題の解決ができる。	①情報伝達において、その目的に適した表現方法や伝達方法を選ぶことができ、また表現方法を工夫するなど、相手にわかりやすく伝えることができる。 ②データに様々な処理を施すことにより、問題解決に有用な情報に変換したり、データから新たな意味のある情報を見い出すことで問題を発見・解決することができる。	①情報と情報技術を適切に活用することを通して，法規や制度及びマナーや情報モラルを守ろうとする態度が見られる。 ②問題発見・解決の場面において情報や情報技術を積極的に活用することで情報社会に主体的に参画しようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめる。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。			

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	情報社会の問題解決	情報セキュリティと個人が行う対策 ・認証とパスワード ・ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｳｨﾙｽなどサイバー犯罪の手口とその対策など ・個人情報について	a:個人が行うセキュリティ対策である認証の考え方や管理について理解している。安全性の高いパスワードを設定する方法を身に付けている。ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｳｨﾙｽやフィッシング詐欺など情報セキュリティの脅威となる手口と被害にあわないための対策方法を理解している。 b:安全性の高いパスワードを作成することができる。パスワードの設定について考え，適切に判断し管理・使用することができる。また悪意のある第三者からの新たな手口や未知の攻撃から、パスワードや個人情報を守るための情報や技術を収集して適切な行動や対処ができる。 c: 大切な情報を守るためのセキュリティーの概念と情報セキュリティ技術や仕組みについて興味・関心を持ち、個人情報と情報関連の法律を守ろうとしている。	プリント 資料 ノート 宿題 定期考査	定期考査 観察 1年間のパスワードの管理状況	プリント（振り返り） 観察
		情報社会における法規と制度 ・知的財産権と産業財産権 ・著作権	a:著作者の権利と伝達者の権利についての法規やルールについて理解し、他人の著作物を守りながら、著作物を適切に利用する方法を身に付けている。 b:著作物の利用例について、著作権違反かどうかを判断し、著作権違反の場合、どのような利用方法か可能か、どのような手続きか必要かを判断することができる。 c:自分の身の回りにどのような知的財産があるか、また自分にどのような著作物と著作権があるかということを知った上で、制限内で正しく引用したり、自由に利用が許可された著作物を利用するなど法律を守ろうとしている。	プリント 資料 ノート 宿題 定期考査	定期考査	プリントの（振り返り） 観察 今後の作品内での著作物の利用状況

※令和４年度以降入学生用

	コミュニケーションと情報デザイン	文字，図表，静止画等の各表現メディア，情報メディア，伝達メディアの特性を理解し、目的に適した方法で情報を発信する。	a:情報をわかりやすく伝達するために，文字，色や配色，図やイラストなどの基本的な表現方法を理解している。また、ﾜｰﾌﾟﾛｿﾌﾄを使って図・表を含むビジネス文書を作成することできる。 b:情報伝達の目的や対象を考え、わかりやすく伝えるために論理的な展開の文章を考えたり、数値などのデータを視覚化したり，表や箇条書きなどを使ってレイアウトを工夫するなどしたビジネス文書を制作、表現することができる。 c:情報をわかりやすく伝達するために，表現方法について学習活動を行い，自ら改善しようとしている。	プリント 課題ファイル 定期考査	課題ファイル 実技試験	プリントの振り返り
		レイアウトや色彩，ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ，アクセシビリティ等、情報伝達における情報デザインの役割を理解した上で、表現に情報デザインを意識して活用する。	a:情報をわかりやすく伝達するために，文字，色や配色，図やイラスト、ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝなどの基本的な表現方法を理解している。また、ペイント系ソフトを操作して簡単な画像編集ができる。 b:「ﾋﾟｸﾄｸﾞﾗﾑ」や「文化祭ポスター」など情報デザインを意識して目的にあった表現工夫ができる。 c: 情報をわかりやすく伝達するために，文字，図表，グラフなどの表現方法について学習活動を行い、完成した作品を客観的に見直す等して、よりよく改善しようとしている。	プリント 課題ファイル 作品 定期考査	作品	プリントの振り返り 作品
後期	コンピュータとプログラミング	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀでのﾃﾞｨｼﾞﾀﾙ表現 数値の表現 文字のﾃﾞｨｼﾞﾀﾙ表現 音の表現 画像の表現 動画の表現 様々なファイル形式	a:数値・文字・音・画像・動画をｺﾝﾋﾟｭｰﾀで扱うためのﾃﾞｨｼﾞﾀﾙ化の仕組みを理解している。 b:音声，画像，動画のﾃﾞｨｼﾞﾀﾙ化の特徴を理解した上で、ツールを活用して音の編集、画像合成、アニメーション動画の作成などに工夫して課題のテーマに適した効果的な表現ができる。 c:音、画像、動画のﾃﾞｨｼﾞﾀﾙ化を理解しようとしており、また音声編集，画像編集，動画作成の作品制作を，関心・意欲をもって積極的に取り組もうとしている。	プリント 課題ファイル 定期考査	作品 定期考査	プリントの振り返り 観察
		ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ基礎 ﾋﾞｼﾞｭｱﾙﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞﾂｰﾙを用いてﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞの基礎とｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑの理解	a:ﾋﾞｼﾞｭｱﾙﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝﾂｰﾙを用いたﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ作成について理解している。またｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑの基本構造を理解している。 b:問題解決に必要なｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑを判断し、ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを完成させることができる。また完成したﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑプログラムが正しいかどうかを考察することができる。 c:・問題解決のために、ｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑの知識をもとに，試行錯誤しながら積極的にﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを組もうとしている。	プリント 課題ファイル	課題ファイル	プリントの振り返り 観察

※令和４年度以降入学生用

		ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ応用 ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ言語を用いたﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ開発と問題発見・解決。	a:ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝ言語を用いたﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ作成について理解している。また変数や配列、関数などの機能を理解して利用することができる。 b:問題解決に必要なｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑを判断し、課題である「じゃんけんゲーム」などのｹﾞｰﾑﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを自分でｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑを考えて作成することができる。また完成したﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑが正しいかどうかを考察し、修正や工夫をして完成度を上げることができる。 c:問題解決のためにｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑを考え，効率的なﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを粘り強く作成しようとしている。	プリント 課題ファイル 作品 定期考査	課題ファイル 作品	プリント（振り返り） 課題ファイル 観察
	情報通信ネットワークとデータの活用	データの種類と，表計算ｿﾌﾄを活用したデータ処理による問題発見・解決。	a:ｵｰﾌﾟﾝｿｰｽﾃﾞｰﾀを理解し、データ処理に必要な表計算ｿﾌﾄの基本的な操作方法と関数の機能を使うことができる。 b:表計算ｿﾌﾄを活用してデータから条件や目的に適合するものを抽出する等データ処理をして、意味のある情報に変換、グラフ化等をし、その結果から分析・考察することができる。 c:問題解決のためのデータの分析の方針を立てて、表計算ｿﾌﾄを活用して，試行錯誤しながら粘り強く取り組もうとしている。	プリント 課題ファイル 定期考査	課題ファイル 実技試験 定期考査	プリント（振り返り） 課題ファイルと
		ネットワークと情報システムについて理解	a:IoT や人工知能、仮想空間など最新のネットワークを利用した技術や今後発展するようなサービスの仕組みとその技術が情報社会に及ぼすメリット・デメリット等の影響を知っている。またﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝｿﾌﾄを活用して発表用スライドを作成できる。 b:インターネットを利用した新たな技術やサービスについて、問題発見し、様々な方法で調べた上で自分なりに考察して問題解決の方法を提言することができる。 その内容をﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝｿﾌﾄを活用してわかりやすく表現し、発表することができる。また、スライド作成時に著作権を理解した上で使える素材と使えない素材を正しく判断したり、正しく引用することができる。 c:インターネットを利用した技術について積極的に調べて独自性のあるテーマの発表ができるように積極的に取り組もうとしている。また、目線やｼﾞｪｽﾁｬｰ、声の大きさなど工夫して相手にわかりやすく発表するために何度もリハーサル練習をするなど積極的に取り組もうとしている。	プリント 発表スライド	発表スライド プレゼンテーション 定期考査	プリント（振り返り） 発表スライドと プレゼンテーション 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度